

生活と結びつけた素材の開発「ペットボトルふん水」

三養基支部 中原小学校 教諭 小西 徹

1 素材の紹介

ペットボトルと油粘土、ストローを使って、空気力で水が噴き出す仕組みを体験する道具を作成しました。



2 関連する学年と単元

4年「とじこめた空気や水をおしてみよう」（大日本図書）

3 素材について

教科書では「やってみよう 空気や水を使ったおもちゃを作ろう」のページに、「ふん水」が紹介されています。そこでは、ペットボトルと空気ポンプやポリエチレンのくた、ボールペンのじくなどが使われていますが、ストローと油粘土で簡単に作ることができます。

ストロー2本を油粘土のかたまりで包み、水を入れたペットボトルに差し込みます。片方のストローから息を吹き込むと、もう片方のストローから水が噴き出します。

ストローは上の部分が曲がるものを使っています。ペットボトルは、やや小さめのものの方が、ストローが下まで届くので、よいようです。